

廣瀬 裕子 論文内容の要旨

主 論 文

(Cytokine Production from Peripheral Blood Mononuclear Cells of Mite Allergen-Sensitized Atopic Adults Stimulated with Respiratory Syncytial Virus and Mite Allergen)

(ダニにアトピーがある成人に RSV およびダニ刺激を行った場合の末梢血単核細胞のサイトカイン産生について)

(廣瀬裕子, 松瀬厚人, 土田朋子, 深堀 範, 福島千鶴, 水田陽平, 河野 茂)

(International Archives of Allergy and Immunology •
146 巻 149—155 2008 年)

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻
(主任指導教員：河野 茂教授)

緒 言：アトピー型の喘息における呼吸器ウイルス感染症とアレルゲンとの相互反応については明らかでない。RSV は小児，成人ともに重要な下気道感染症の原因であり，小児と成人の RSV に対する免疫反応が異なる。このことから小児においては Th2 優位の免疫反応を引き起こす RSV がアトピー素因のある成人においてどのような影響をもたらすかを検討した。

対象と方法：アトピーの成人と非アトピーの成人の末梢血単核細胞をダニアレルゲンとともに RSV と培養し，そのサイトカイン産生を測定した。

結 果：ダニアレルゲンによりアトピー群の IL-5 産生は有意に増加した。RSV 感染は IFN- γ の産生を有意に促進し，その程度はアトピー群でより高かった。RSV はダニ刺激を受けたアトピー群における IL-5 産生を抑制した。不活化 RSV はアトピー群における IL-10 の産生を増強した。IL-12 については全群ともほとんど産生されなかった。

考 察：アトピーの成人においては RSV 感染で単純にアレルゲン特異的 Th2 反応が誘発されるわけではなかった。RSV によって誘導された IFN- γ や RSV 蛋白によって誘導された IL-10 がアトピーの成人におけるアレルギー性炎症に対し重要な役割を果たしている可能性が示唆された。